

策定プロセス訪問調査事例

鳥取県鳥取市

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名(鳥取市) 記載担当者名(平野道子・長谷川・渡辺・浅井・前田)

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住 民 参 加	
<p>【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口、地理的条件、社会資源等 市町村の組織体性等 住民組織の成熟度等 県の取り組みと保健所の特徴 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 人口は平成7年に146,336人となり、10年間で約2万人増加している。年齢構成では0～14歳の人口が減少傾向にあり、65歳以上の人口が増加してきている。 県庁所在都市として山陰地方東部の中核都市。大規模企業が少なく若者の安住対策や、女性の就業率が高く勤労婦人の子育て支援が課題となっている。 出生率は全国傾向と同様に減少傾向にあり、少子化対策も大きな課題となっている。また、母親の孤立もめだち、母子のふれあい事業の充実望まれる。 産科(10)、小児科(17)等の医療機関は市内に比較的多く、通院には便利である。また、小児科医会とは定期的な検討会ができており、母子保健事業には協力的である。 保健業務は3年前より業務担当制をとっており、高齢者業務、健康増進業務、母子保健業務に分かれている。保健婦16人(臨時2人) 保健婦は目的設定型の計画づくりについて、県内で研修を受けていた。(藤内、星)年2回・平成6年～ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域保健法制定後、保健福祉活動強化事業で母子保健の技術研修を度々実施。 3歳児検診、離乳食講習会会場を市の保健センターに移し実施。(平成8年～) 保健所保健婦管理研修で計画策定について研修を受けていた。 三朝町の先行事例を知っていた。 	
<p>【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係内で保健婦検討委員会を決め、目的設定型の計画づくりの医師統一を図った。(のびのび会議)策定作業メンバー(5人保健婦、1人栄養士) のびのび会議で検討したものについて課長他課内の理解を求めた。 他課に目的設定型の計画づくりについての意見を求めた。(他の計画をつくった課へ) 課長が部長、次長、児童家庭課、教育委員会に対して説明し協力依頼をした。 小児科医との検討会で母子保健計画策定について協力依頼をし意見を求めた。 係内の保健婦5人、栄養士1人による「のびのび会議」を計8回開催。 住民等外部の委員を入れた「母子保健計画作成委員会」を設置し、計4回開催。 <課題・問題点・苦労したこと> 目的設定型計画づくりについての課内の意志統一が図りにくかった。 計画策定の予算化が年度当初できなかつた。 問題解決型も効果的にとり入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成委員に住民代表を加えるために、課内統一と部長に合意をとった。 作成委員会設置前に、子育てグループの代表者に、理解を求めた。 研修で住民参加がよいと学んだ。 	
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算 人的体制 時間の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 12月予算で予算を獲得。印刷については、計上予算がつかなく9年度予算で補足した。 業務分担であるが、他業務担当者の人的、時間的な協力が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 母親代表が意見をだしやすくするため、各子育てグループで話しあう機会をもった。 	
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> キーマン、範囲、手法 <p>検討体制 (【Ⅱ】と同様)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ニーズの把握のためのアンケート項目について小児科医との検討会で協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民組織として子育てグループ(12グループ)の会員に母子保健計画策定について理解を求め、めざす地域像について意見を聞いた。 	

<p>②具体的手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所からの統計資料の提供が役だった。 ・毎年作成している保健事業のまとめ(けんこう鳥取)が役だった。 ・子育てグループの中で計画策定についての話し合いをもった。(例:「安心して子供を生める 町」にするには何が必要だと思いますか」と聞いた。)また、子育てグループ代表者会の中でも意見交換をした。 ・乳幼児検診においてアンケート調査を実施した。分析は小児科医との検討会で検討。 ・6ヶ月児・1歳6ヶ月児健康診査受診児の保護者に対して「今後の母子保健事業のあり方に関する調査」を実施(有効数392人) 		
<p>【IV】計画(施策)化</p> <p>① 具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>② 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の目標、数値目標 ・ 評価指標 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係内の「のびのび会議」で計画原案を作成。「のびのび会議」だけのものとならないよう必要に応じて課内の意見を募った。(名称等) ・ 外部委員を含めた「作成委員会」で原案の検討協議。各委員に次回までの課題をもってもらうことで、より積極的な参画となった。 ・ 児童育成計画(エンゼルプラン)との調整。 ・ 「作成委員会」で作成した計画案を各種団体長等の「社会福祉審議会」に諮問し、答申を得た。 ・ 目標達成を評価するため、年次ごとに数値目標を設定し評価の指標とした。(最初から設定する予定であった。 ・ <課題・問題点・苦労したこと> ・ 具体的な数値目標の設定が困難なものがあった。 ・ 「作成委員会」委員の多面的な意見のひきだし方や意見がしやすい雰囲気づくり、でた意見を計画にとりいれる等を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成委員に住民代表として、父親1名と母親2名を加えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健所主催の研修会で各市町村が策定段階の計画をもとに検討した。(9月) ・ 健康増進係長が作成委員会に委員として出席し、具体的内容、数値目標等について助言した。
<p>【V】計画の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9年度予算への反映 ・ 計画の進行管理組織体制 ・ 住民、関係機関への周知等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両親学級、離乳食講習会など、子育てグループの協議化→提言機能 ・ 「作成委員会」を衣替えて「母子保健推進連絡協議会」を設置し、計画の実施に向けての検討をし計画推進を図るようにした。(進行原理) ・ 「母子保健推進連絡協議会」予算は12月補正予算で獲得。2月に第1回協議会開催予定 ・ 小児科医との検討会で計画の確認。計画書を母子保健推進員・民生児童委員・小中学校等関係機関へ配布した。 ・ 保育園長会において計画について理解及び協力を得るため、計画ダイジェスト版を配布し説明する。(ダイジェスト版の印刷) ・ 子育てグループ代表者会議において計画ダイジェスト版の配布及び説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生児童委員の子育て支援事業の取り組みが始まり保健婦に相談されるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種事業の手法や必要機器等の情報を提供した
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ (キーワードも記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりと問題解決のゆい合 ・ 目標と事業がつながっている。数値目標がある。 ・ 計画策定を機に他課及び関係機関との連携が強化された。保健センターのみではみえない現状や問題が明確になった。 ・ 「作成委員会」の設置が策定に効果的であった。委員長との打合わせを密にしたこと、委員から活発な意見が出されたのは良かった。委員から「会にでてよかった」「委員になって勉強になった」等の声があった。 ・ 国や県が計画策定の義務づけについて不明確で策定開始が遅れた。義務づけをしてもらおうと実施しやすい。 ・ 今後、計画にそって実施するにあたり予算や人的問題、関係機関との連携等が課題。目標に向かい計画推進していきたい。 ・ 時間があれば作成委員会で風船図をつくりかかった。 		

